伊勢市廃棄物減量等推進審議会（平成28年度第2回）審議結果等

* 日時：平成29年2月17日（金）10時0０分から
* 場所：伊勢市役所東庁舎３階防災スペース
* 出欠：
	+ 委員：別紙のとおり
	+ 事務局

環境生活部長（坂本）、清掃課長（堀畑）、ごみゼロ推進係長（中野）、ごみゼロ推進係（東條）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。なお、単なる資料解釈に対する説明は省略している。

|  |
| --- |
| ●報告事項に対して |
| 委員1 | 燃えるごみが増えている理由は？ |
| 事務局 | 後でも言うが、燃えるごみに含まれる資源物の混入や事業系ごみも観光客の動向が影響しているかもしれない。 |
| 委員2 | 毎年、燃えるごみが多いと言っているが、何も検証がなされていない。今後はＰＤＣＡサイクルを構築すべき。構築しないと、審議会をする意味が無い。伊勢市の考えを聞かせてほしい。 |
| 事務局 | 収集場所の排出状況を確認し、適宜集積所へチラシを貼る等などの啓発や、各自治会へ粗大ごみ回収申し込み時に説明会の案内などの対策は実施している。 |
| 事務局 | ごみ量が増えた・減ったなことなどの原因は特定できないので、有効な施策が打てないが、さらに啓発も行っている。人口は減少しているが、世帯数は減っていない。このためにごみ量が減っていない可能性もある。さらに、啓発を行っていきたい。 |
| 委員3 | 意識の高い市民は変わらず分別活動をしている。最近は、スーパーなどでの店頭回収が行われているが、この収益は事業所のものになるのか？ |
| 事務局 | 収益は事業所のものであるが、ポイントに還元するなどの業者負担もある。利益が出ているのかは不明。 |
| 委員4 | 近年、断捨離や終活などの影響で、捨てることが美化されている。捨てる前に、しっかり分別すべきと啓発（説明会など）を行う必要がある。粗大ごみ回収時にも、新品同様のものが多くあり、もっと有効活用してほしい。また、若い人はリサイクルショップを利用しているが、高齢者はなかなか利用しづらい。対策を考えてほしい。 |
| 事務局 | 粗大ごみについては、自治会で収集の立会い時に、他の人に回すなどできないのか？検討していきたい。また、店頭回収の周知を、市も積極的に行うこととしたい。 |
| 委員5 | 資料を見ると、人口が減少したペースでごみ量を換算すると、本来は366ｔ近く減るはずが、実際は30ｔ程度しか減っていない。減量化に向けた施策が出来ていないと言える。今後は、高齢者が増加すると、さらに分別ができない人が増えてくる。出せない人達がポイントになってくる。伊勢市として何か対策しているのか？ |
| 事務局 | 市では現在行っている、「ふれあい収集制度」と、福祉部局と調整している「ごみ屋敷」対策などがある。 |
| 委員3 | 集積化の弊害だと考えている。要支援に引っかからない人への対策、も考えてほしい。また、賞味期限、消費期限についても対策を行ってほしい。 |
| 委員2 | 実際に行った事業については、実績を取って数値で報告してほしい。 |
| 委員4 | ふれあい収集の情報は、市民に周知すべきではないのか？また、「分けられないごみ」について、捨て方を紹介してほしい。 |
| 委員3 | ふれあい収集の案内は、民生委員で配っている。安易に利用されることの無いように、全体的な視点に立ってほしい。 |
| 委員6 | ふれあい収集の情報は。「分別ガイドブック」には掲載しないでほしい。乗せられると今まで構築してきた自治会と町民のネットワークが破壊されてしまう。また、日常的に行われている不法投棄も、自治会を悩ませている。 |
| 委員7 | 市民に必要なことは、「自助、公助、協助」。全部を行政で行うことは良くない。自分でできることは、自分達で行ってもらう。 |
| 委員5 | 平成27年度の数字に誤差があるが？ |
| 事務局 | お見込みのとおり、誤差がある。 |
| 委員8 | 公用ごみの対策は？ |
| 事務局 | 公用ごみの大半は草。都市整備部部局にはなるべく草を乾かしてから出すように依頼している。なかなか対応してもらえていないが、今後も引き続いて協力を要請していきたい。 |
| 委員4 | 私の自治会は公園の草刈で、ビニール袋に入れないでいる。その方が乾くし、ボランティアで作業するほうは楽である。ただし、他の自治会は袋に入れている。市としてはどちらを優先するのか？きちっと決めてほしい。 |
| 事務局 | 草刈には、自治会が行う委託による清掃と、ボランティアで行う清掃とがある。清掃課が行う収集には時間がかかるため、ビニール袋に入れてもらうようお願いしている。 |
| 事務局 | 市が行う七夕清掃時には、朝熊の投棄場にビニール袋に入った草が集められ、一斉に袋から出して天日干しをしてから回収している。市としては、手間がかかるがビニール袋に入れてもらっており、実験的に穴あきビニール袋に入れてもらうことなども検討している。 |
| 委員6 | 自分の自治会では、袋に入れていないと草が散乱して大変なことになる。どちらかにきめるのではなく。ケースバイケースの対応をお願いしたい。 |
| ●審議事項に対して ○（CLL活動（子供・高齢者向けごみ分別ガイドブック）について） |
| 委員9 | ＣＬＬ活動について。審議事項であるにも関わらず、内容は具体的なのに、タイトルが分かりにくい。市民全員に主張するにはタイトルがおかしいのでは？ |
| 委員8 | ＣＬＬ活動は、皇學館大学内の他の活動を含めた総称なので、このタイトルになっている。分かりやすいものにする必要はある。 |
| 委員4 | 近くの人からも、今出ている分別ガイドブックの字が読めないといわれることが多い。高齢者にも資源ごみを分別してほしいのであれば、ページ数は多くなっても、字が大きいものを作ってほしい。また、デザインは悪くても、色使いも見やすいものにしてほしい。 |
| 委員6 | 高齢者に市がしてほしいことが伝わるように、ターゲットを絞って、最低限高齢者にしてほしいことだけを訴えるようにすべきである。 |
| 委員8 | 高齢者にアンケートを取るなどして、意見抽出して、ページは少なくてもよいので作るべき。 |
| 委員6 | ページは2～3ページでよいので、本当に訴えたいことが伝わるようなものを作ってほしい。 |
| 事務局　 | 一度、調査します。 |
| ○平成29年度実施予定施策について |
| 委員6 | （キエーロについて）市だけで行うのではなく、モデルとして希望する自治会に声をかけてみるべきである。自治会にあれば、興味のある市民は見に行くこともできる。私のまちづくり協議会でも、花を植えており、堆肥がほしいと思っている。」 |
| 委員4 | （資料を見ながら）市民のモニタリングは松山市だけなのか？ |
| 事務局 | まずは、市としても製品の使い方などが分からないので、平成29年度は市でモニタリングを行う予定。その次の段階で、市民向けのモニターを募集することも可能である。 |
| 委員3 | 自治会だけでなく、私たちのような団体もモデルとして使用したいと考えている。 |
| 委員5 | 集積所に置いて、市民に生ごみを持ってきてもらうのはどうか？ |
| 事務局 | 過去に自治会でモデル事業として行ったことがあるが、やはり徐々に減少し浸透しなかった。 |
| 委員5 | 今後は、単身者が増えていく。さらに、生ごみ処理機の使用者は増えていかないのではないか？ |
| 事務局 | まずは、市でモニター実験を行い、市民も利用してもらうことで生ごみ処理機購入の補助金対象にしていきたいと考えている。 |
| 委員8 | いろいろな団体でモニターをしながら、購入助成件数の増加を図っていただきたい。 |
| 事務局 | 購入者は概ね6～8万円くらいが多い。高いものを購入すると、実費負担が大きいため、購入者が伸びないのかもしれない。 |
| 委員6 | 市民にとって堆肥を出せる場所が無いのが原因ではないのか。 |
| 委員4 | 私は、ボンティア活動で出るごみは何でも、自分の畑に持って行っている。市民も、市内と郊外では出せる状況は違うと思うが、自分で処分できるものは、自分達で処分すべき。 |
|  |